

# PRODIGY.MP クイックマニュアル

FWごとの追加機能と基本的な使い方のご案内です。追加機能は、ページ下部に追記しております。

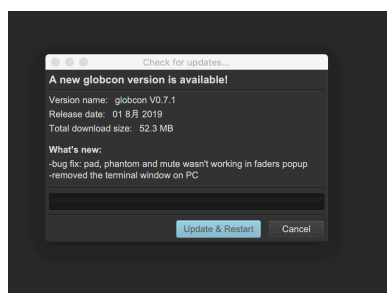
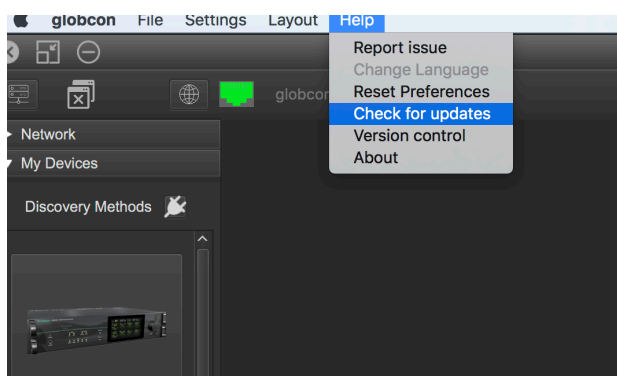
PRODIGY.MPを全て設定するには、globcon (アプリケーション)が必要です。  
<http://www.globcon.pro/> より、ソフトウェアをダウンロードしてください。

なお、取扱説明書はとくに用意されておらず、チュートリアルビデオが、同サイトに用意されております。

## ◎globcon / アップデートの確認

globconはダウンロードをしたバージョンが最新とは限りません。

上部 Helpメニューから、「Check for update」をクリックして最新版を確認、最新版では無い場合、「Update & Restart」をクリックして更新してください。



## ▼設定のポイント

PCとリアパネルのMANAGEMENT Port1,2,3い  
ずれかとPCを接続してください。



### 1. IPアドレス設定

ホーム画面のIPアドレスをタップしても設定します。

もしくは、フロントディスプレイ左上「≡」をタップ、NETWORK のボタンを押します。

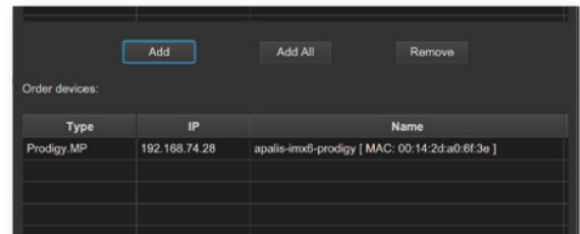
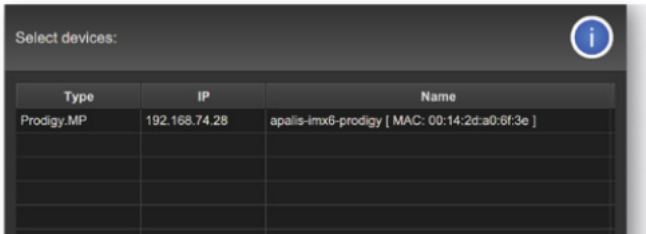
デフォルトはDHCPサーバーとなっております。

マニュアルで設定する場合は、設定項目をタッチ、CONTROLのノブで数字を設定してください。SAVEを  
押して保存します。



## 2. globcon

globconを立ち上げ、ネットワークポートを選択します。  
My device を開き、「コンセントマーク」をクリックして、EthernetをONにしてください。接続されているPRODIGY.MPが確認できます。



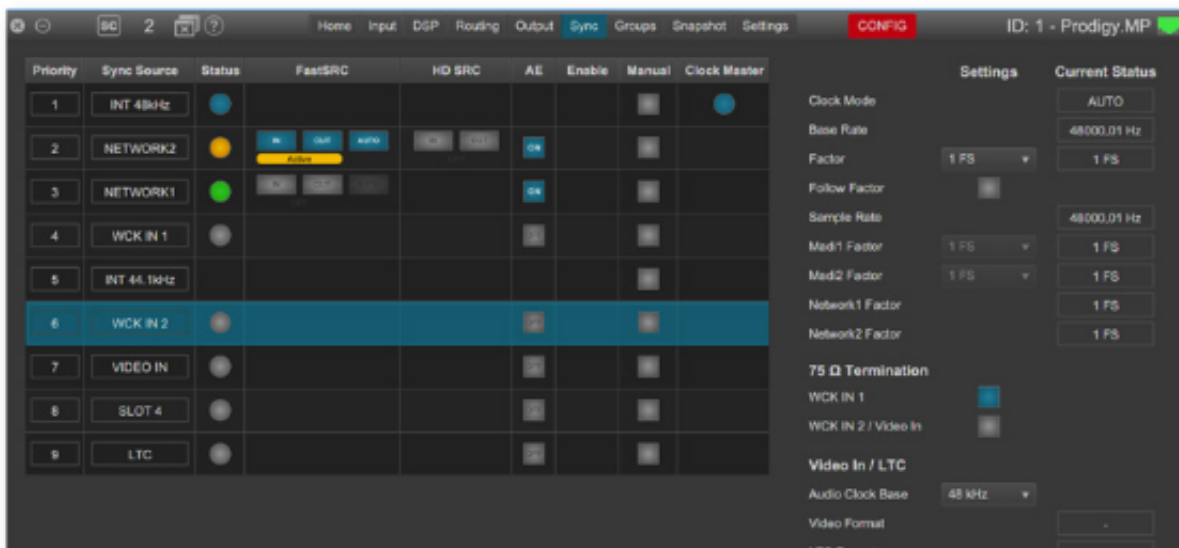
[ Add All ] もしくは、  
該当機種を選択し[Add]をクリック、OKをすると、メイン画面にPRODIGY.MPが反映されます。

右上「RJコネクターのマーク」が緑色になれば、通信しています。



## 3.CLOCK設定

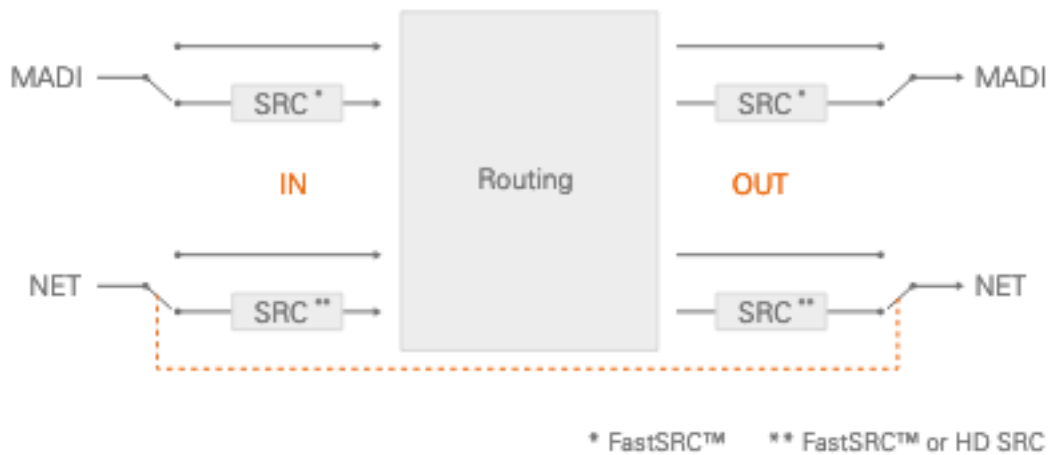
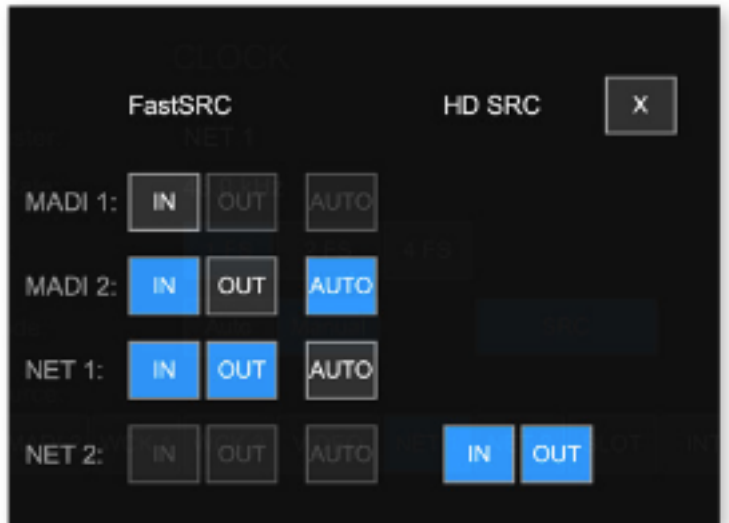
globconのSyncの項目で、クロックの詳細設定が行えます。  
優先順位の設定はクロックソースに障害が発生した場合、いくつかのプランを定義できます。  
優先順位は、クリック>移動することで順番を変更します。信号が戻った時(Auto Enable /Enable)でクロックソースを元に戻すこともできます。



## ◎Fast SRC / HD SRC

低いレイテンシーのサンプルレートコンバータです。MADI I/OとネットワークI/Oで使用できます。HD SRCはオーディオネットワークモジュール(RAV.SRC.IO、Dante.SRC.IO、SG.SRC.IO)で提供される最先端のサンプルレートコンバータです。

\*ネットワークにFast SRCを使用する場合は、input/output、両方をONにする必要があります。



入力がデバイスのクロックソースとして使用されている場合、FastSRCまたはHD SRCをアクティブにする必要も推奨もありません。

Fast SRCは、優れた音質と0.15ミリ秒の非常に低い遅延の高品位なサンプリングレート変換で、ライブサウンドなどの「命の恩人」的な役割です。

ハイエンドのサンプルレート変換には、処理能力が顕著にひつようなため、最高のオーディオ品質を得るためには、SRC専用のRAV.SRC.IO、DANTE.SRC.IO、MADI.SRCをおすすめします。

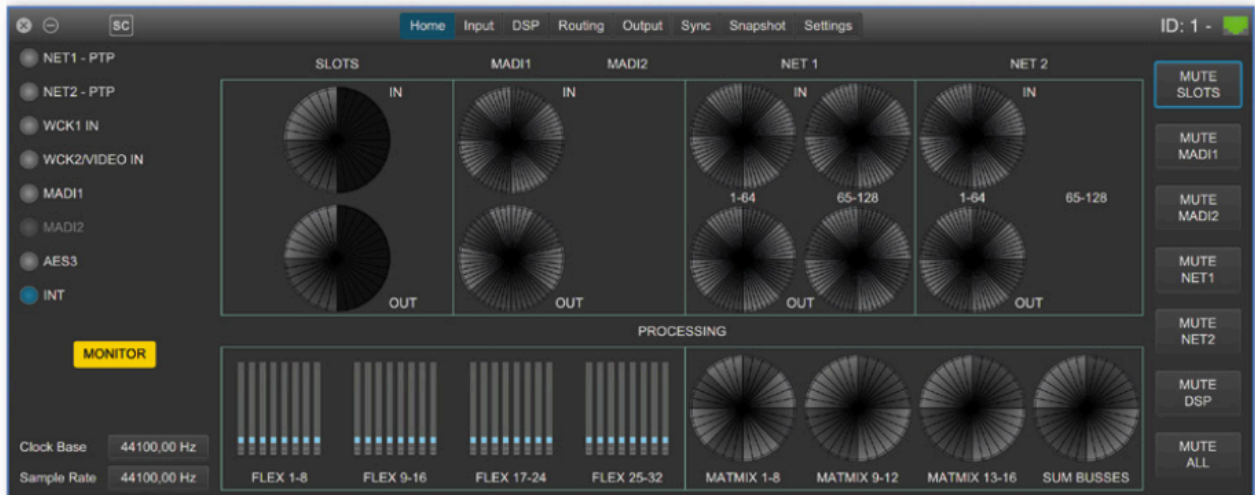
HD SRCは最先端のサンプルレートコンバータで、レイテンシーは1msecとなります。

### 3. 各 PRODIGY.MPのコントロール

接続されたMPのウィンドウをダブルクリックすると、それぞれコントロールタブにアクセスできます。

ビデオチュートリアルが、以下のページに用意されています。

[www.globcon.pro](http://www.globcon.pro).

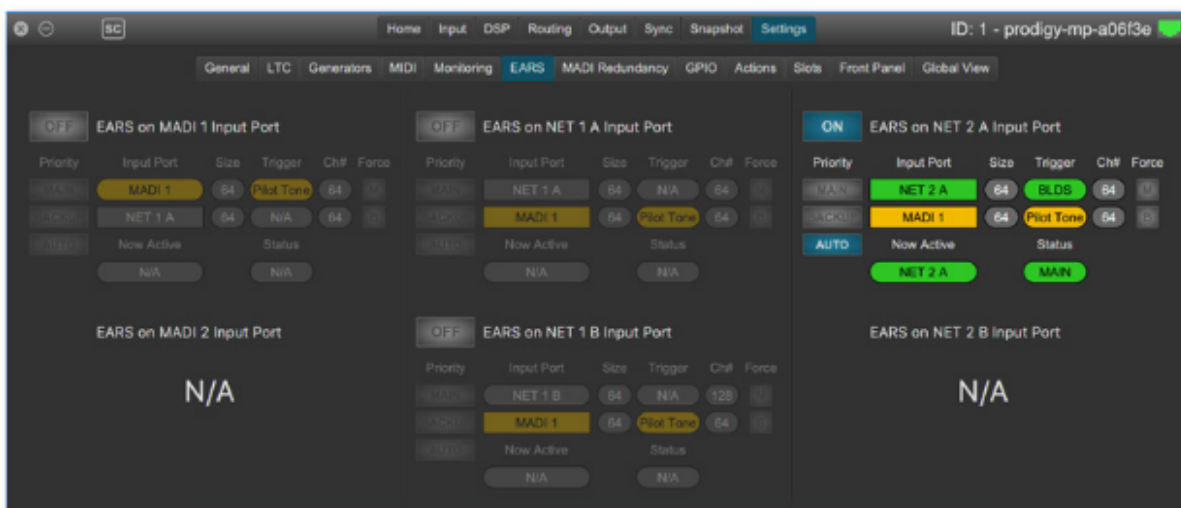


#### ◎ 設定のポイント

PRODIGY.MPのRoutingの設定は、MPに装着されているアナログ、AES、ネットワークIOモジュールなどのIN/OUT用「Routing」タブとDSPにルーティングする「DSP」タブの中の「DSP Routing」があります。

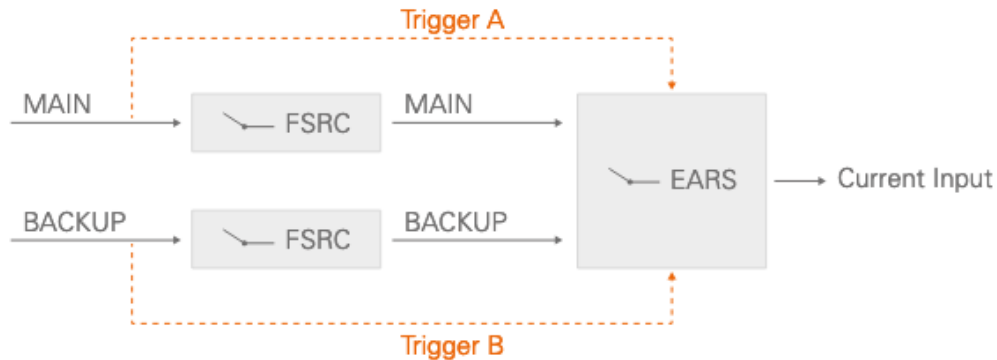
DSPに入力音声をアサインしたい場合は、DSP Routingにて Flex Channel やMatMixに音声を送ってください。そしてDSP処理した信号を最終的「Routing」にて任意のアウトにアサインすると処理された音声が出力されます。（ルーティング例：入力 > DSP( Flex CH/ MatMix) > 出力）

### EARS -Enhanced Automatic Redundancy Switch



EARSは、Directout独自のBLDSテクノロジーとPilot tone (パイロットトーン)を組み合わせたスイッチング機能です。ネットワークとMADI入力の特定のチャンネルに含まれるトリガー信号を監視します。

- ・ BLDS = BLDSジェネレーターで生成します(Routing タブ内で利用可能)。
- ・ Pilot tone (パイロットトーン) = -40dBFS以上の信号



FAST SRCの前のオリジナルサンプルレートにてモニター、EARSのロジックは、ルーティングの前で動作します。BLDSトリガーによる切替は即時(2 Sample)、パイロットトーンは10msでトリガー(スイッチ)されます。

\*同じEARSロジック内にて、異なるトリガー信号を使用することはお勧めしません。

### Priorities & Priority Mode

3つのModeは、トリガー信号がロスした後、そのトリガー信号が戻った時の復帰後の動作を定義します。

- ・ AUTO = トリガー障害が検出され他のポートにトリガー信号が検出された時、スイッチオーバー。
- ・ MAIN = 両方のポートでトリガー信号が検出された場合、常にMAINが選択される
- ・ BACKUP = 両方のポートでトリガー信号が検出された場合、常にBACKUPが選択される。

\*同一のトリガー信号が必要です。同一でない場合、BLDSがパイロットトーンを無視します。

### Force

自動切替を一時的に無効にするために、出力ソースを強制的にMAINまたはBACKUPにすることができます。

### Input Modes

EARSは、1FSで64chのチャックで動作しています。RAV.IOのように128chを扱うオーディオネットワークモジュールは、NET#AとNET#Bの2つのユニットに分割されます。

オーディオネットワークモジュールのMAINポートには2つの入力モードが用意されています。

- ・ MODE1 - 異なるポート
- ・ MODE2 - 前半 / 後半

MODE 2はオーディオネットワークモジュールの最初の64chを、32chずつ2つのチャックに分割します。各モジュールのチャンネル数は関係なくなります。

\*MADI Redundancyを有効にした場合、EARSのMADIポートは無効になります。

**Example - 1 FS, NET 1 = DANTE.IO, NET 2 = RAV.IO**

Module	MODE	MAIN	BACKUP
DANTE.IO	1	Dante (ch 1 - 64)	MADI 1 (ch 1 - 64) MADI 2 (ch 1 - 64) NET 1A (ch 1 - 64) NET 2B (ch 1 - 64)
DANTE.IO	2	Dante (ch 1 - 32)	Dante (ch 33 - 64)
RAV.IO [A]	1	RAVENNA (ch 1 - 64)	MADI 1 (ch 1 - 64) MADI 2 (ch 1 - 64) NET 1A (ch 1 - 64) NET 2B (ch 1 - 64)
RAV.IO [B]	1	RAVENNA (ch 65 - 128)	MADI 1 (ch 1 - 64) MADI 2 (ch 1 - 64) NET 1A (ch 1 - 64) NET 2A (ch 1 - 64)
RAV.IO [A]	2	RAVENNA (ch 1 - 32)	RAVENNA (ch 33 - 64)
RAV.IO [B]	2	n.a.	n.a.

**Example - Device operating at 1 FS**

Input	Factor	trigger signal ('Ch x')	signals available ('Size')
MADI	1FS	ch 64	ch 1 - 64
MADI	2FS	ch 32*	ch 1 - 32
MADI	4FS	ch 16*	ch 1 - 16
DANTE.IO	1FS	ch 64	ch 1 - 64
DANTE.IO	2FS	ch 32*	ch 1 - 32
DANTE.IO	4FS	ch 16*	ch 1 - 16
RAV.IO	1FS	ch 64 / 128	ch 1 - 64 / ch 65 - 128
RAV.IO	2FS	ch 32 / 64*	ch 1 - 32 / ch 33 - 64
RAV.IO	4FS	ch 16 / 32*	ch 1 - 16 / ch 17 - 32

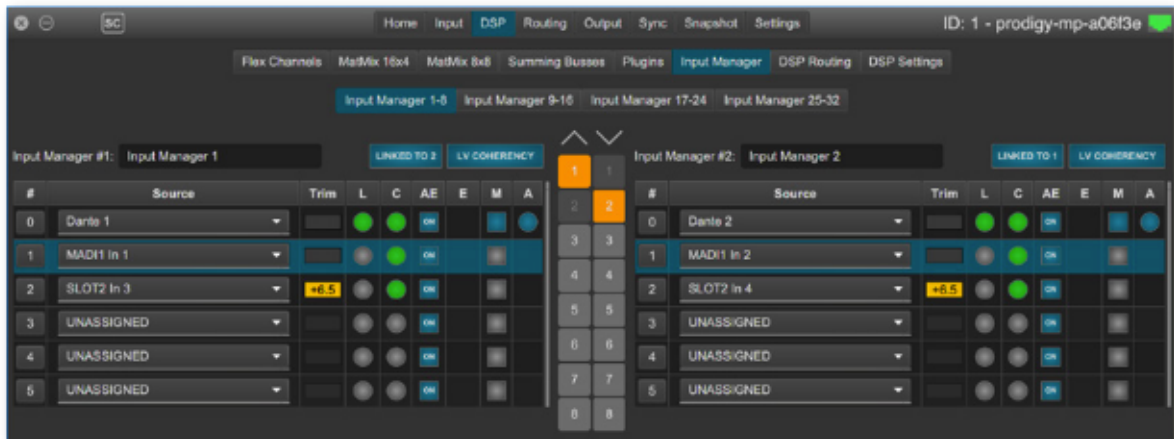
**Example - Device operating at 2 FS**

Input	Factor	trigger signal ('Ch x')	signals available ('Size')
MADI	1FS	ch 64*	ch 1 - 32
MADI	2FS	ch 32	ch 1 - 32
MADI	4FS	ch 16*	ch 1 - 16
DANTE.IO	1FS	ch 64*	ch 1 - 32
DANTE.IO	2FS	ch 32	ch 1 - 32
DANTE.IO	4FS	ch 16*	ch 1 - 16
RAV.IO	1FS	ch 64 / 128*	ch 1 - 32 / ch 33 - 64
RAV.IO	2FS	ch 32 / 64	ch 1 - 32 / ch 33 - 64
RAV.IO	4FS	ch 16 / 32*	ch 1 - 16 / ch 17 - 32

\* FastSRC™ active

## Input Manager

インプットマネージャーは最大6つの異なる物理的な入力を優先順位リストに従い信号ソースを定義します。この信号ソースは、ルーティングにパッチできます。もし、物理入力が失敗すると、優先順位リストの次の入力が信号ソースとして使用されます。



- 32 インプットマネージャー
- 2 インプットマネージャーはステレオリンク可能
- ソースを移動して、優先順位を変更
- 次のソースに切り替えるための基準
  - レベルの一貫性/Coherenceの不一致(C)
  - 調整したスレッシュホルトレベルを下回るレベル(Signal) > Silence Detection (無音検出)
- 自動有効化(AE)を使用すると、自動切替後、その信号ソースに戻ります。
- 有効(E)は、戻すのに手動で操作が必要です。
- 手動選択(M)は、自動切り替えを無効にします。
- 有効なソースは、青い●にて示されます(A)



## Coherence (C)(一貫性)

このアルゴリズムは、それぞれの物理的なソースの信号レベルを監視します。そのレベルとは、特定期間にわたってほかのソースと比較されます。もしレベルがソースと一致する場合、それは、「確実/有効」とみなされます。

- レベルは一貫性の一致、適切な切り替えを確実にするために、Trimでトリミングできます。
- Auto-Timeが一番優先順位の高いソース(つまり「1」)を参照して、全てを「低い」ソースにします。
- Manual (手動)選択は、トリミング中にすべてのソースをチェックできます。

### ◎Build 11 & globcon Version 1.5.0より以下の機能が追加されています。

- オペレーションモード：”Show”と“Configuration”モード (globconから設定)
- Snapshot: 持続ストレージとフロントパネルからのリコール
- ライセンスオプション：リモートコントロール > EMBER+
- ライセンスオプション：リモートコントロール > OSC

### Showモード

デバイスに一貫性を保ちながら、スナップショットを呼び出して安全なオペレーションを行います。

### Configuration モード

デバイスをShowモード用に準備、**Configuration Setting** を変更をできます。

Configuration Setting は「透過的な」スナップショットのPRODIGYのデータ構成の一部です。つまり、Showモードでスナップショット(Snapshot)が呼び出されても、変更されません。

### \*注意

このオペレーションモードはデバイスのステータスです。globconのステータスではありません。  
デバイス起動時には、「Showモード」が常にアクティブになります。

### ◎Configuration Setting

Flex Channel Style (IN/OUT)

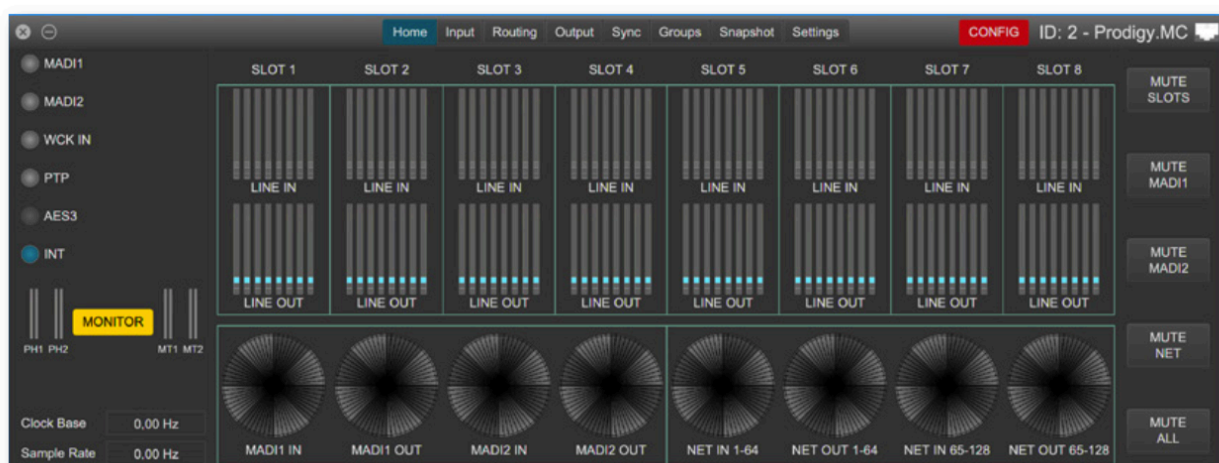
MatMix Bus configuration (Mono/Stereo)

Plugin insert (routing/position, not the plugins parameters which are recalled via snapshot)

HW Insert (routing/position)

Channel Link (mute, fader, plugins)

Group membership





ConfigurationモードとShowモードの切替えは、globconのPRODIGYデバイスのWindow内にあります。

## Snapshot

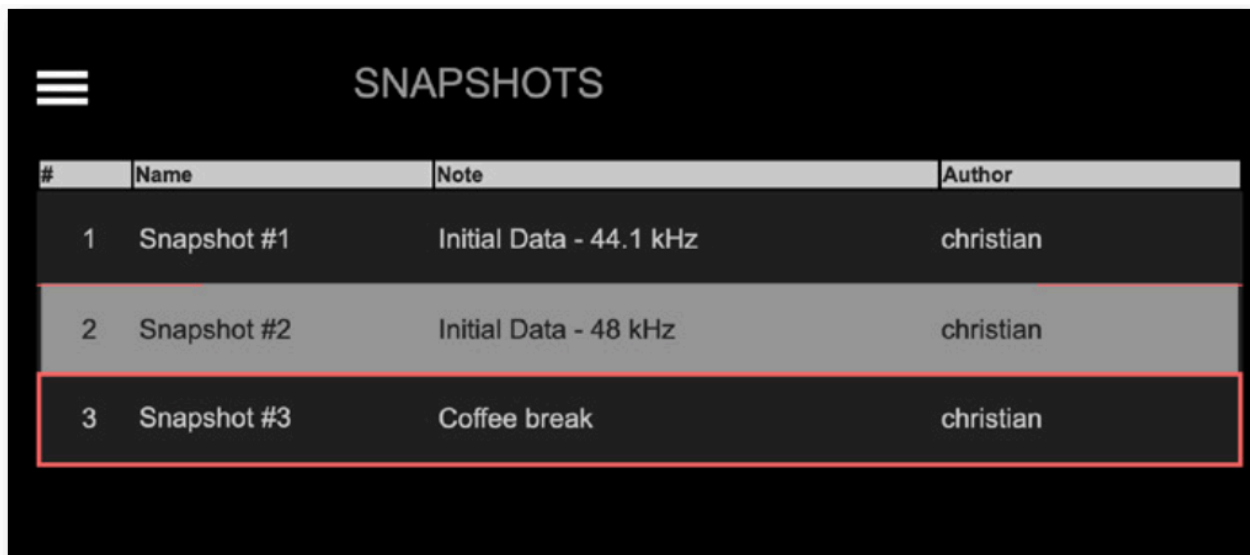
スナップショットは、2つの異なるリストに分けられます。

上段：Configurationモードで設定の変更があり「最近」非準拠になったスナップショット。

下段：以前からの非準拠のスナップショットもふくまれています。

非準拠のスナップショットはリスト化されますが、Showモードに戻ると、リコールすることができなくなります。(ロックされたスナップショットは変更や適合できません)

## Snapshot-フロントパネル



#	Name	Note	Author
1	Snapshot #1	Initial Data - 44.1 kHz	christian
2	Snapshot #2	Initial Data - 48 kHz	christian
3	Snapshot #3	Coffee break	christian

globconで作成された各スナップショットは、デバイスに保存されます。スナップショットはglobconプロジェクト内に保存されるため、「Push」機能を介してデバイスの構成も可能です。なお、準拠しているスナップショットのみがリスト化され、呼び出し可能です。

◎Build 12 & globcon Version 1.6.0より以下の機能が追加されています。

- ・ライセンスマネージメント
- ・アップデートモード
- ・Shutdown / reboot into update mode
- ・ネットワークモジュール (RAV.DANTE)のSRCモジュール対応
- ・Ember+ 改善

## アップデートプロセス

現在のバージョンからアップデートするには、2つのステップが必要です。

1. 'update mode' to version 1.3.2 にアップデート
2. System Build 12にアップデート

どちらも 電源の再起動が必要です。

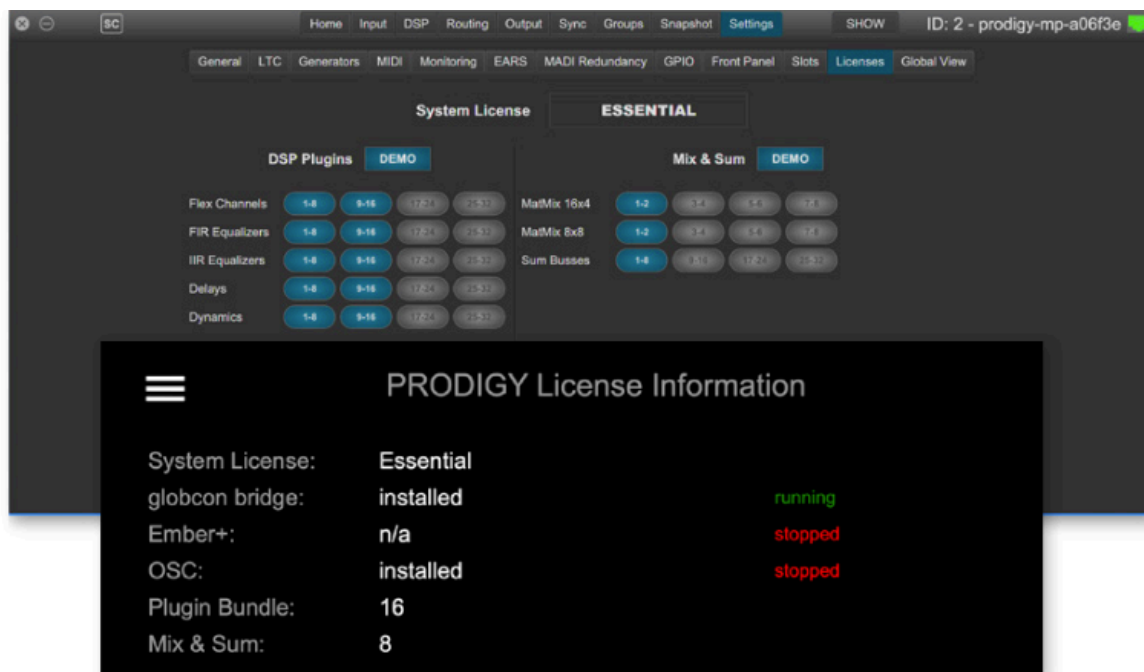
## ライセンスマネージメント

拡張性を高めるために、PRODIGYシリーズは異なるシステムライセンス(Essential、Advanced、Unlimited)で導入できます。

また、追加のシングルライセンスはオンライン購入可能です(\*現在準備中)。

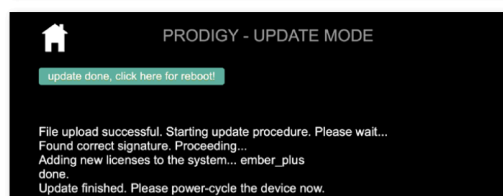
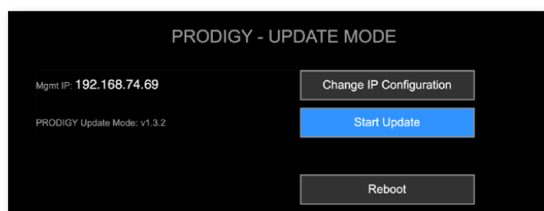
2021年4月以前に発売されたすべてのデバイスは、現在の機能を維持するために「Advanced」を取得します。

ライセンスステータスは、フロント、ブラウザ、globconで確認できます。



**Update Mode v 1.3.2** (System Build12が必要です。)

■ System Build12とライセンスのために、Update Mode v1.3.2が必要です。

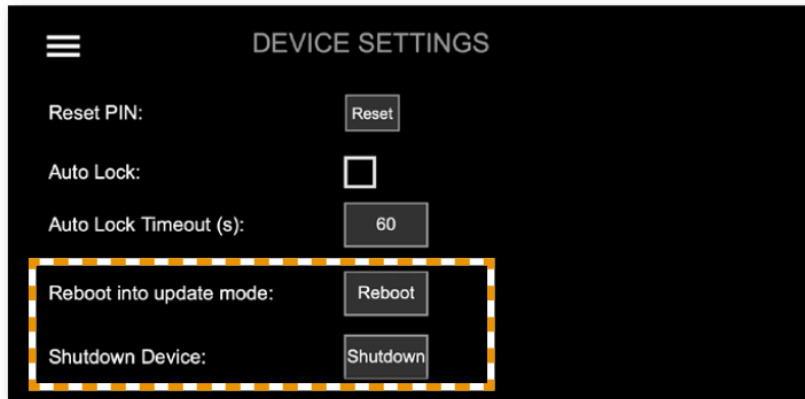


詳しいアップデート方法は巻末に記載します。

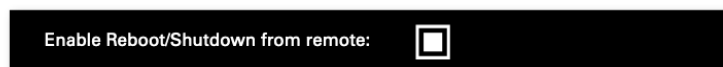
## ■Shutdown(シャットダウン) /Reboot into update mode(アップデートモード)

フロントパネル 「≡」 > SETTING > DEVICE SETTING

ファイルを正しく操作するには、デバイスをOFFにする前に、オペレーションシステムをシャットダウンさせる必要があります。デバイスを更新するには、フロントパネルから更新モードを再起動できます。(立ち上がるまで少し時間がかかります。)



両方のコマンドは、フロントパネルで機能をONにしたら、globcon、もしくはWeb UIからも可能になりますが、管理ネットワークに自由にアクセスできる場合、セキュリティ上のリスクがありますのでデフォルトでは無効になっています。



globcon



Configuration Mode



Setting Genera



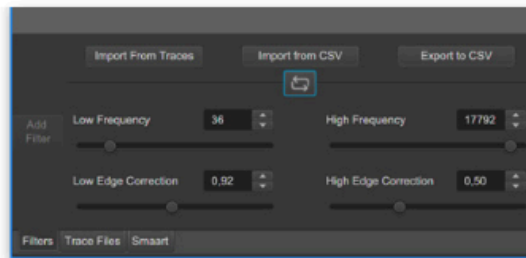
◎Build 13 & globcon Version 1.7.0より以下の機能が追加されています。

- カスタムフィルター(FIR Filter)
- ラウドネスメーター
- インプットマネージャー - Silence検知モード
- FastSRC - Automatic Bypass オプション
- ソロマネージャー

## Custom Filter

カスタムフィルターは、スピーカーシステムをチューニングする前にイコライズするのに役立ちます。

測定された伝達関数を適用して、最大800ステップと調整可能なSmoothingを備えた、カスタムフィルタを作成します。Smartブラフ尹を使用して、伝達関数を測定したり、サードパーティの測定システムから、測定値をインポートできます。

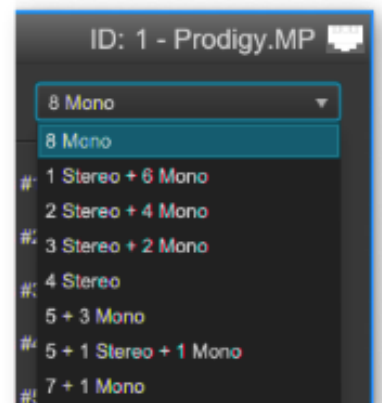


カスタムフィルターはひとつ以上の測定により作成されます。

コントリビューションは手動で変更、FIR (レイヤー 1-3、GROUPS)や他のフィルターは、さらなるチューニングに使用できるはずですが。

チュートリアルビデオが用意されています。 <https://vimeo.com/directout/prodigy-custom-filter>

## Loudness (ラウドネスメーター) > Unlimitedに搭載

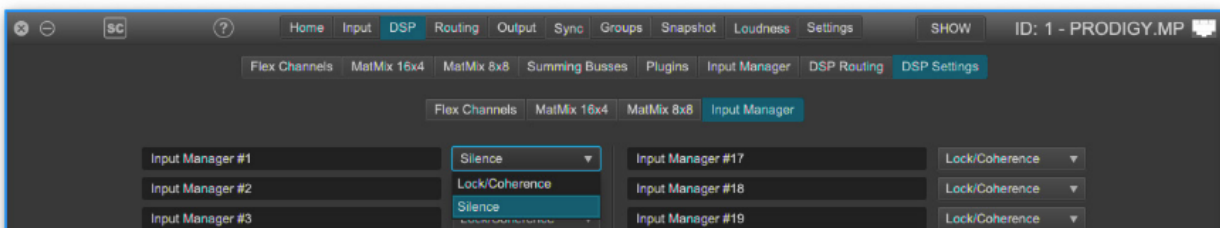


ITU-R BS.1770-4に準拠した、最大8チャンネルのアサイン可能なラウドネスメーター  
信号源は、物理的な入力、もしくは、DSPアウト(Flex Channel、Matrix、Summing Bus)を設定でき、最大測定時間は4時間です。

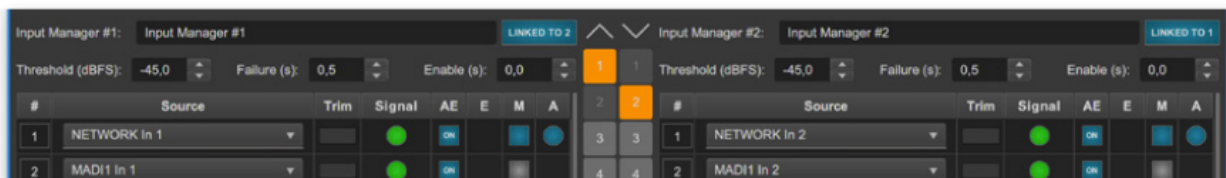
動作モードは、モニターセットアップを設定できます。  
ラウドネスメーターはUnlimited以外のモデルは、オプションになります。

## Input Manager - Silence Detection

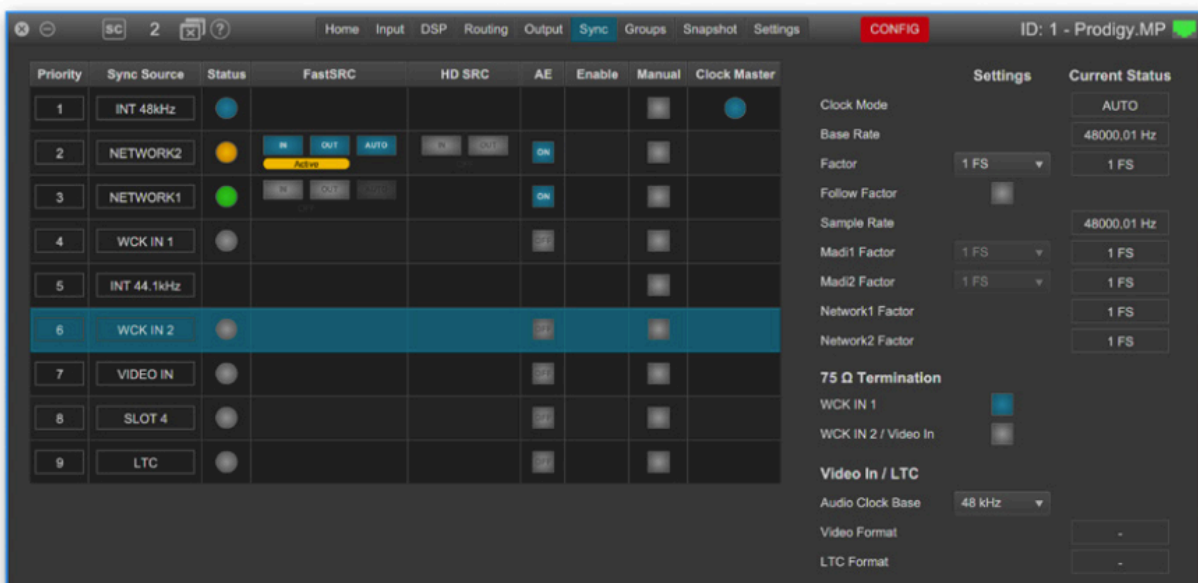
Build 13では、Silence detectionを追加しました。DSP Setting 設定します。



Input Manager を「Silence」に設定すると、入力信号の測定レベルがThresholdレベルより下回り、Failureより長い時間になると、優先順位リストの次の物理入力に切り替えます。  
Enableは、信号がback/戻る時、物理入力に戻るまで前の待機時間を定義します。



## FastSRC Automatic Bypass

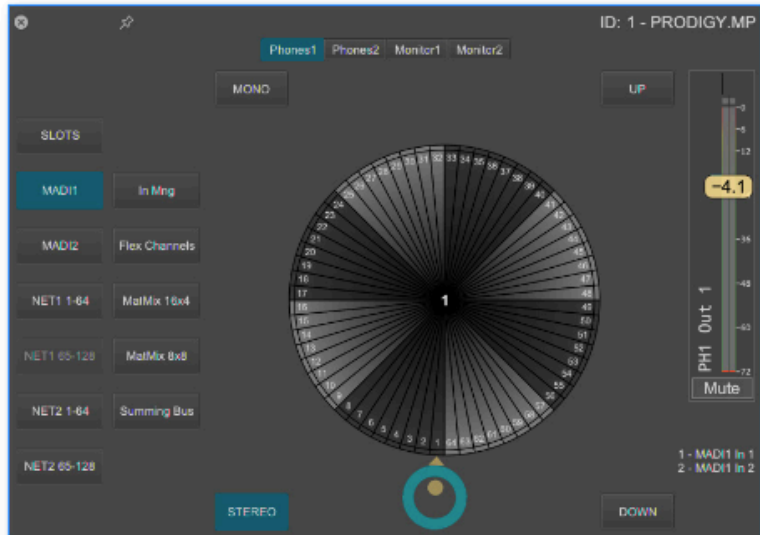
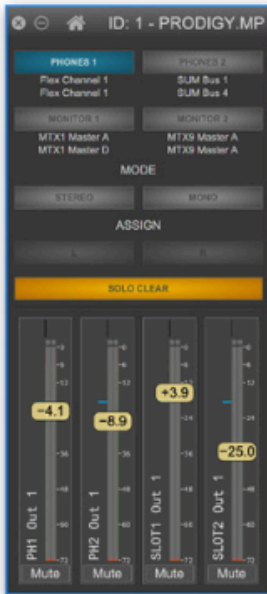


AUTOを有効にすると、入力信号の同期状態(システムクロックと同期しているか)に応じて、サンプルレート変換が適用されます。

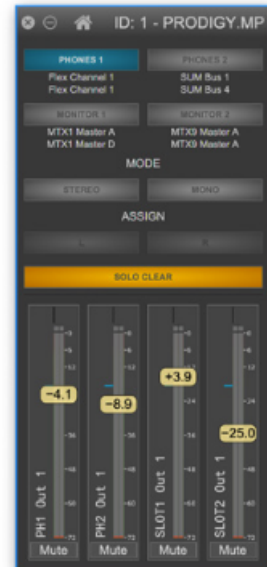
Auto ON / Fast SRC ON の場合、シンクをロスしたら、SRCが有効になるという機能です。  
HR SRC(RAV.SRC.IO、 DANTE.SRC.IO)がアクティブの場合、Fast SRCのAutomatic Bypassは無効になります。

### Solo Manager -Monitoring DSP

DSP 出力(Flex Channels、 Matrix 、 Summing Busses)のモニタリングが導入されました。  
Homeタブ > “Monitor”ウィンドウ。物理的な入力とDSP出力をモニタリングできます。



→



Solo Manager は 'Flex Channel' と 'Summing Busses' からアクセスできます。

出力先(PHONE 1/2、Monitor 1/2)を有効 >ブルーボタン  
MODE > (ステレオ/モノ)、ASSIGN Left / Right もしくは両方などが操作でき、  
チャンネルストリップをクリックして、ソースをアサインします。

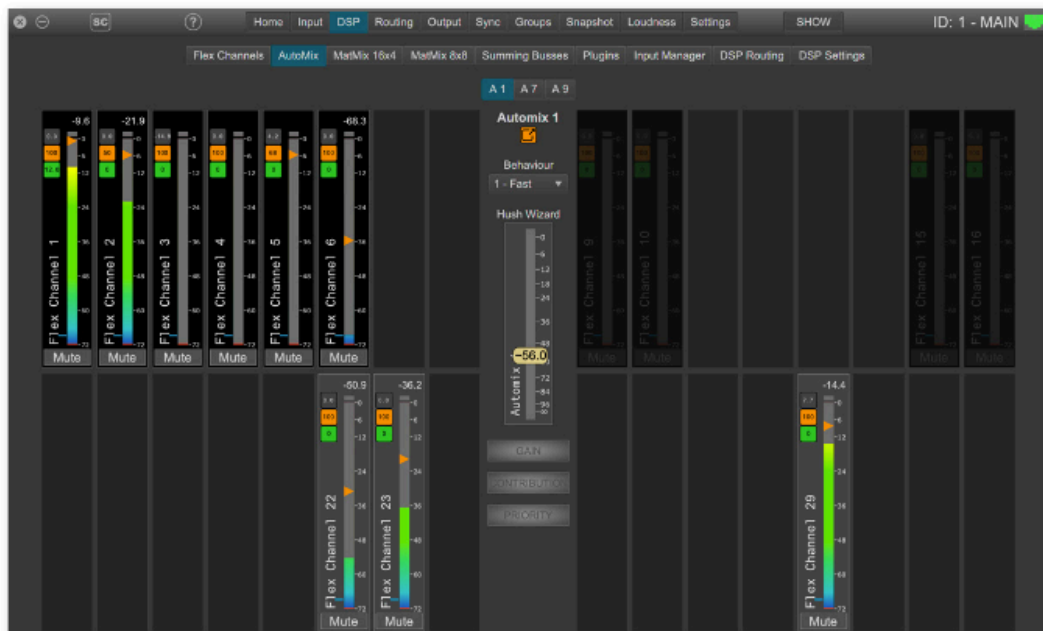
◎Build 14 & globcon Version 1.8.0より以下の機能が追加されています。

- Auto Mix (別売ライセンス購入が必要です。)
- Mirrorモード
- ラウドネスメーター(別売ライセンス購入が必要です。)
- IIRプラグイン 6フィルター (別売ライセンスが必要です。)
- スロットラベル

Auto Mix (ライセンス商品)

自動ミキシングにより、明瞭度の向上、全体的なノイズフロアが減少する可能性があります。

AutoMixグループに属するFlex チャンネルのゲイン数値を自動的に設定します。最大32 Flexチャンネルを16のAuto Mixのグループのひとつに割り当て可能です。



アルゴリズムの結果は、いくつかのパラメータにより調整されます。

- ・ Gain - Flex チャンネルのゲインレベル、キャリブレーションに依存しない(Offset)
- ・ Contribution - キャリブレーションの結果
- ・ Priority -レベルに優先を追加
- ・ Behavior -アルゴリズムによるレベル調整の速度
- ・ Hush Wizard - ノイズ対レベル

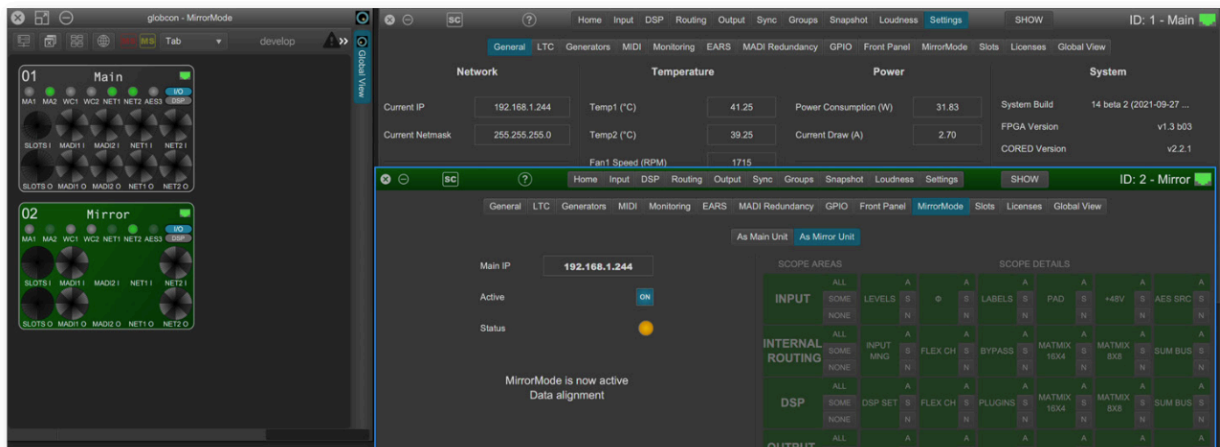
Summing バスとMat Mixを利用すれば、処理されたFlexチャンネルを合わせAutoMixグループに出力できます。

詳しくは以下のチュートリアルビデオをご覧ください。

<https://vimeo.com/directout/prodigy-automix>

## MirrorMode

メインユニットとミラーユニットで定義したパラメータを提携(Alignment)させます。ミラーユニットのパラメータは、ユーザーで定義できる Mirror Scopeに基づいて調整されます。

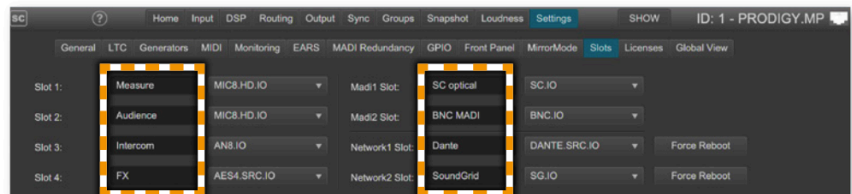


- ・複数のミラーユニットは可能
- ・ディジーチェーンのミラーユニットも可能(ミラーユニットが、他のミラーユニットのメインユニットとして動作する)
- ・双方向の提携(Alignment)も可能ですが、おすすめしません。

詳しくは、以下のビデオをご覧ください。 <https://vimeo.com/directout/prodigy-mirrmode>

## スロットラベル (Setting > Slot)

Routing > Matrix ルーティングマトリクスのLabelsを「User」に切り替えると反映されます。



◎Build 16 & globcon Version 1.9.0より以下の機能が追加されています。

Dynamics Plugin は、以下の4つのモードが提供されました。

- ・ Compressor - Gate
- ・ Limiter - Gate
- ・ Upward & Downward Compressor
- ・ SoftGate



## SoftGate

従来とは異なるアプローチです。メインバスのゲインを制御するのではなく、せかんたりバスのげいんを調整し、元のバスはクリーンなままにします。

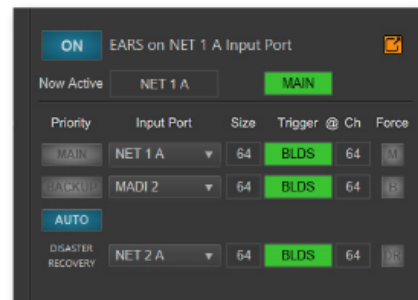
このアプローチにより、スレッシュホールド付近での「よりソフト」な動作を得られます。

Softness の数値を0にすると、ゲートを完全に閉じた状態になります。数値を高くすると元の信号の一部が通過します。

騒々しい環境でのボーカル信号のノイズを除去するのに非常に効果的な方法です。

詳しい説明は、globconのHelpにて。

EARS にDisaster Recovery モードが追加されました。  
もし、MAINとBACKUPに障害が発生すると、DISASTER RECOVERYがトリガーとなります。



MADI I/O High Speed Modeを追加。  
Input > Input Formatsで変更可能

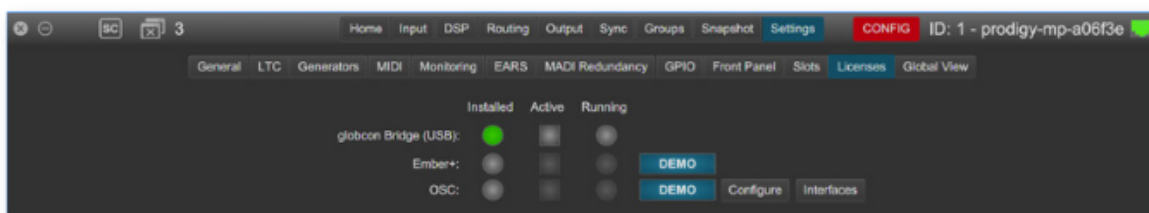
Mode	1 FS	2 FS	4 FS
High Speed	48 kFrame	96 kFrame	192 kFrame
Legacy	48 kFrame	S/MUX 2	S/MUX 4

詳しい追加機能の情報は以下のInfo PRODIGY.MP Supplemental (英文マニュアル)をご確認ください。  
DirectOut ホームページ、PRODIGY.MPの製品ページ、DOWNLOADSにタブよりダウンロード頂けます。

<https://www.directout.eu/en/products/prodigymp/>

## ■ライセンス(Unlimitedに搭載、オプションで購入)

それぞれ、30分のデモモードを搭載しています。



## Ember +

- ・ デバイスの包括的な監視
- ・ ルーティングマトリクス(チャンネルラベル)
- ・ input gain / pad/ P48、
- ・ クロックコンフィグレーション/ ステータス、
- ・ Flex Channel と Sum Bus : gain、mute、Polarity

EMBER+ service: <MGMT IP address>, Port 900

## OSC (open sound control)

サードパーティのソフト/ハードウェアを介して、ネイティブコントロールを提供します。

それぞれのOSCアクションは、globeconを介して定義します。

参考ビデオ > <https://vimeo.com/directout/oscprogramming>

---

## ■Firmware アップデート方法/ライセンスインストール方法

システムライセンスを更新する、オプションのライセンスをインストールするには、Updateモードで再起動する必要があります。

build12以前のファームウェアの場合、まずは、Build12にアップデートする必要がありますので、以下を参照にアップデートしてください。

build12以前のファームウェアの場合、まず、build12にアップデートする必要があります。

アップデートは以下よりダウンロードできます。

<https://www.directout.eu/en/support/updates/>

まず、下記、メソッドAにてアップデートモードに入ります。

'1\_PRODIGY\_Update\_Mode\_v1\_3\_2\_20210419.pdgy' を選択し、アップデートを行ってください。  
自動的に再起動します。本体んの電源を切ってください。

次に再度、メソッドAにてアップデートモードに入ります。

'2\_PRODIGY\_MP\_System\_Update\_b12\_20210416.pdgy' を選択、アップデートを行ってください。  
アップデートが完了したら、電源を入れ直し、INFO - PRODIGY License Info でbuildを確認できます。  
詳しい手順は、下記4以降を参照ください。

### ▼ build12以降

\*デバイスの設定(Save Preset)のバックアップを強くお勧めいたします。

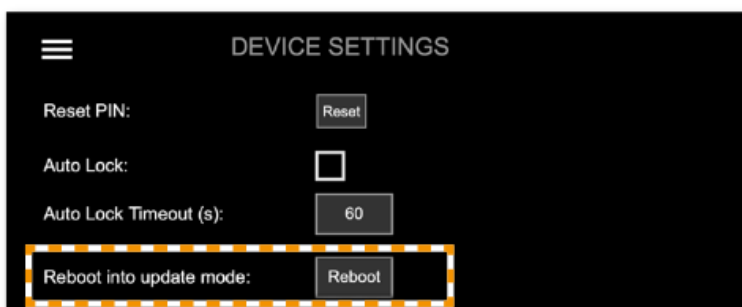
1. DirectOut webページ ([www.directout.eu](http://www.directout.eu)) PRODIGY.MCの製品ページより、イメージアーカイブをダウンロードしてください。 (- System Update Build xx )
2. ダウンロードしたイメージファイルを解凍します。  
→prodigy\_mc\_system\_update\_<build>\_<date>.pdgy
3. Updateモードを起動します。

## メソッド A

- フロントパネルのHOMEボタンを押しながら、電源を入れます。
- DirectOutのロゴが消えたら、ボタンを離してください。

## メソッド B ( System build 12以降)

- フロントパネル 「≡」 > SETTING > DEVICE SETTING  
Reboot into update mode > Rebootをクリック (立ち上がるまで少し時間がかかります。)

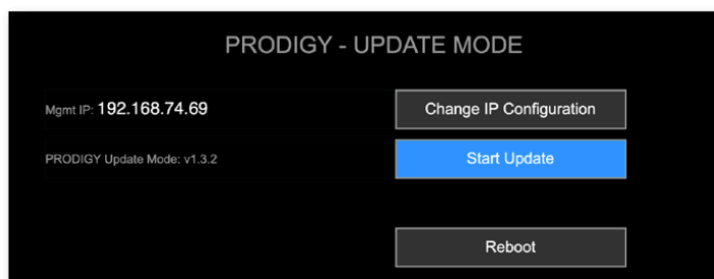


Enable Reboot/Shutdown from remote:

このコマンドは、フロントパネルで機能をONにしたら、globcon、もしくはWeb UIからも可能になりますが、管理ネットワークに自由にアクセスできる場合、セキュリティ上のリスクがありますのでデフォルトでは無効になっています。\*メソッド Bでうまく立ち上がらない場合、メソッドAで再起動してください。

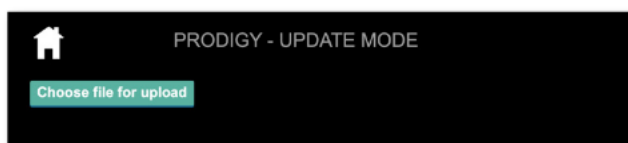
4. Webブラウザ((Mozilla Firefox もしくはGoogle Chrome)で、デバイスのIPアドレスを入力します。

コントロールのネットワーク設定が、DHCPに設定されている場合、更新モードでのIPアドレスは異なる場合がございます。同じにしたければ、更新モードで再起動の前に手動で構成します。

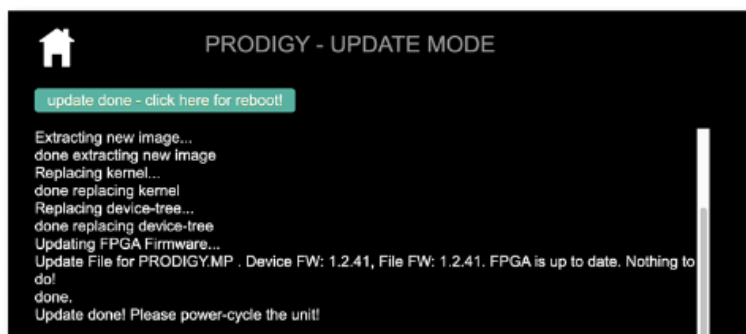


5. Start Updateをクリックします。

6. Choose File for uploadでダウンロードしたファイルを選び、アップデートします。



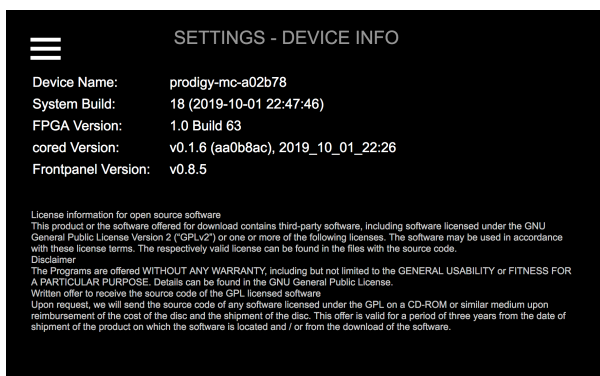
アップデートには数分かかる場合があります。  
アップデートが完了すると、再起動のメッセージが表示されます。



## 7. Reboot !

メッセージが現れたら、デバイスの電源を入れ直してください。

システムアップデートではなく、オプションのライセンスを複数インストールする場合、デバイスを再起動せず、複数のライセンスをインストールするには、インストールが正常に完了した後、「HOME」アイコンをクリックします。



8. SETTINGS DEVICE INFOをチェックし、バージョンを確認できます。

## Tip

Choose file for uploadをクリックし、ダウンロードした (\*.pdgy)ファイルを選択した際、もし、pdgyファイルが選択できなければ、左下の「オプション」をクリック、ファイル形式を「すべてのファイルを」にしてpdgyファイルを開いてください

